
 <p>るうてる 箱崎群教会共同体版</p> <p>一月報 メッセージ と証し</p>	<p>発行 日本福音ルーテル箱崎教会 代表者 牧師 和田 憲明 〒812-0053 福岡市東区箱崎 3-32-3 TEL (092) 641-5440 / FAX (092) 641-5480 箱崎教会・恵泉幼稚園 http://www.jelc.or.jp/hakozaki 聖ペテロ教会・ 奈多愛育園・るうてる愛育園 https://aiikuen.net/ </p>
--	---

平和を実現する人々は、幸いである、

その人たちは神の子と呼ばれる。

(『聖書』マタイによる福音書5章9節／新約聖書P6)

「平和をつくり出す人たち」へ

「平和ってなあに、知ってる？」と、今年も子どもたちに礼拝のなかでたずねてみました。印象深かった答えのひとつは「なんにもないこと」でした。生まれてこのかた、災害級の出来事を、くりかえされる画面の映像で観ていたのでしょうか。子どもは再生数だけ何十回と災害が起こっているように錯覚しますから、毎回の話で枕詞のように、「1回だけ、しかも遠く、ここは大丈夫」と伝えるように意識しています。安心感のなかで他人事でなく「平和」について手話を覚えながらメッセージをおくります。

「平和」の概念は、人それぞれ違います。聖書における「平和」は、旧約聖書では「シャローム」(原語：ヘブライ語)、新約聖書では「エイレーネー」(原語：ギリシャ語)で、日本語訳聖書では「平安」「平和」とどちらでも訳されます。「平和を実現する人々」は、じつは、原語で一語です(ギリシャ語：エイレーネポイオイ)。以前の口語訳聖書では「平和をつくり出す人たち」でした。この祝福の言葉は、本来イエス・キリストだけがそのような名で呼ばれるのにふさわしいはずです。けれども、私たちは「あなたがたは神に愛されている子供ですから、神に倣う者となりなさい。…光の子として歩みなさい。」(エフェソの信徒への手紙5章1節、8節b／新約聖書P357)とあるように、「イエスご自身と似る者とされた」のです(参照：『山上の説教—終末時を生きる』井上良雄著)。

「この10年に起きた行動様式の変化は、人類史上最速のものだ」。現在ベストセラーの『スマホ脳』の著者A・ハンセン氏(1974—/スウェーデン)は「人間の脳はデジタル社会に適応していない」という内容を綴ります。なぜこれほどの多くの人が、物質的には恵まれているのに、不安を感じているのか。今までになく他人と接続しているのに、なぜ孤独を感じるのか。それが次第に分かってきた、と。「本を読むのは昔から好きだったのに、集中するのが難しくなった。集中力が必要なページにくると、本を脇へやってしまう。そういう経験があるのは私だけではないはずだ」(P13)との著者の赤裸々な体験談は私にもあてはまり、多くの課題に向き合わねばならないでしょう。

教会や園につらなる私たちは今、聖書から「平和」を聞きます。平和をつくり出す、実現する人たちは幸い、そして光の子と呼びかけられ、その祝福のなかで生きようとして求められているのではないのでしょうか。



今回は 中学生 高校生 青年までの3つの証し（神さまからの自身への働きかけ）を寄稿くださいました
どれも 4月から6月におよせくださったものです 感謝しつつ おかちします

2021 春キャン感想文

H・O

私は今回初めて春キャンに参加しました。テーマ聖句が私のよく知る聖書箇所だったのでどんなキャンプなのか楽しみでした。また、1日中一つの聖書箇所について考えることは初めてだったので新鮮でした。キャンプ中よく聞いた言葉は「つながり」です。コロナの影響で集まって行うことはできませんでしたが、ZOOMを通しての「つながり」や、神様と私たちの「つながり」など今まであまり深く考えてなかったことを話し合いました。このつながりは、目に見えないけどとても大切なものだと感じました。また、コロナを一言で表すならと考えると、悔しいやつらいなどネガティブなものもありましたが、変化やチャレンジなど前向きなものもありました。私自身コロナの影響で最後の体育祭などが中止になり悔しい思いも思いましたが、今思えばこれから先も思い出に

残る一年だったと感じます。今回参加して、一日という短い時間だったけど楽しかったので来年も参加したいと思っています。

春キャン!

私にとっての解放

～6.安全な水とトイレを世界中に～

S・F

※ 2020年度 高2聖書科レポート
男女格差や飢餓をなくし誰もが安心して暮らせる世界を目指す「SDG's」(持続可能な開発目標)

の17ゴールのうち最も関心を持った一つと、授業で学んだ旧約聖書の中から「解放」をキーワードにしたレポート。

このテーマを選んだのは、中村哲さんに関わる話をたくさん聞いてきたことや、テレビなど至る所で話題にされている水についての問題に対してもう一段階深いところまで調べてみたいと思ったからです。

私たちの住む地球の7割は水でできている(水の惑星)とよく耳にします。そのうちの98%は海水で、残りの2%が淡水、そして私たちが飲むことができる水、つまり安全な水は全体の0.02%とされています。どこの国でも水問題は年々悪化しています。特に中東・アフリカは、世界各地の政府や関連機関、企業、NPO・NGOなどの様々な組織が支援を行っています。具体的には安全で安価な飲料水を確保するための安価で簡素なポンプや濾過器、浄水器の提供です。また簡易水道設備の建設、子どもたちが利用する学校などには飲料水用の浄水フィルターの配布が実施されています。トイレにおいては学校をはじめ各地で設置が行われ、TAP PROJECT JAPAN というユニセフの活動だけでも143基のトイレが設置されました。トイレの設置はもちろん、管理するのは地域の住民が行うため、トイレの管理責任者の養成や修繕の方法などの指導を行っていたり、手洗いの習慣がないため石鹸を使い手を洗う指導などもしています。

中東・アフリカをはじめ私たち人類は「水」を求めて争いをよくおこします。生きていく上で必ず必要である「水」ですが、そればかりにとらわれてしまい、自分がまた自分達が助けられればいいという考えが争いを生んでいるんだと思います。この問題について私は「水からの解放」が求められていると思います。例えば、去年大型の台風が近づいた時には、水や食料の買いだめをしている人が多いように感じました(ニュース)。養生

テープ等も含め自分のことだけを考えてしまい、使えもしない量を買込んだ為に準備できなかった人もいるはずです。もっとわかりやすい例としては新型コロナウイルス流行時のマスクなどがあります。このようにあるものにとらわれてしまうのは愚かだと思えます。しかし口で言うのは簡単で実際自分がその場面に対峙すると同じようになってしまいます。つまり自分の欲からの解放、ここでは水からの解放をし持っていない人のために持っている人が助けるということをある団体だけがするのではなく、世界全体で行っていくことが理想だと思えます。

また、聖書のマタイによる福音書4章1～11節の中の4節「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」とイエスが言ったことが私は「解放」と繋がっていると思えます。「神の口から出る一つ一つの言葉」は人間関係を大事にすることが一番大切だ、ということをお伝え聖書の中で出てくる神は「関わり」を重要視していると思えます。人間が生きていく上で重要なものは「水」や「パン」などの物理的なものではなく「関わり」という内面的なものだと思います。自分たちだけが助かればよいと考えるのではなく、苦しんでいる人にそれを分け与えたり人と人・国と国との助け合いつまり「関わり」を第一に考えていくことが「水からの解放」に役立つと思うのです。このような考えはきれいごとだと思われるかもしれませんが、確かにどれだけ人との関わりを大事にしてもどうしてもならない時もあります。しかしそんな時こそ周りの人や国がそこに対してなにかアクションをとってあげることが重要だと思えます。何かから解放されるためには自分の努力だけじゃどうしようもない時が多々ありますが、聖書が言っているように「関わり」を大事にすることで誰かと協力していくことが解放へのカギとなると思えます。



まとめると「水からの解放」への方策として、まず現地の人や国がそれぞれの「関わり」を大事にする。乾燥地域では水は命そのものであるが故に争いになりますが、求め争うのではなく互いに協力し共有する。そして、比較的余裕がある国などは損得で判断するのではなく、同じ人類としてまた大変な思いをしている人のことを考え援助を行っていくことだと思えます。

私は熊本での大地震の時に人の団結というものの強さを知りました。自分の父や兄また教会の人がすぐさま色々な救援物資をもって熊本に向かった事、また日本各地からの支援などをニュースで見ていると、人と人の関わりが目に見えたようでした。また中村哲さんが行ったことなど「人のために」を第一に考え行動できる人が世界中で増えてきたら、水以外のものからも解放されることができると私は考えています。そのような人になるために身近なボランティア活動、人のためになることを意識して生活していけるようにしたいです。

夜明け前に

O・T

最近ではめっきり行く機会がなくなりましたが、私はアウトドアが好きで、独身時代には、一人でよく山登りや旅行に行っていました。横浜に住んでいたとき、春先に長めの休みがとれたので、伊豆七島の神津島にフェリーでキャンプに行くことにしました。

上陸後、だれも居ない景色の良い海岸を見つけ、テントを張りました。ここで、いくつかの大きな失敗をしました。一つは、景色が良いということは、遮るものがないという

ことであり、風向きによって、ものすごい強風が吹き込むということに気づかず、テントを張ったこと。そして、なんと寝袋を忘れてしまったことに気づいたのですが、日中暖かかったので、大丈夫だろ、とそのまま野営を始めてしまったことです。

簡単な夕食をとり、夜に向かうにつれ、だんだんと様子が怪しくなっていました。風が強くなり、まだ春先だったため、予想以上に気温が下がってしまいました。周囲が暗くなるころには、土地勘もないため、移動するにも困難になってしまいました。非常用のエマージェンシーシートという、アルミホイルのようなシートにくるまっても、着られる服を全部着ても、寒さと不安とテントを叩く風の音で眠れず、本当にガタガタ震えていました。ストレスが極限に達したころ、空が明るくなり始め、徐々に不安が和らぎ、気持ちが緩んでいきました。太陽が出ると、気温が上がり始め、そのありがたさを痛感しました。

このエピソードを最近思い出したのは、日常生活の中で、似たような経験をしたからです。四旬節の頃、何故か仕事でもプライベートでも、次々と良くないことが立て続けに起こり、コロナに対する慢性的なストレスもあったのでしょうか、かなり気持ちを暗くして過ごしていました。それぞれの問題は、しばらく解決しないままでしたが、仕事上のある一つの大きな問題が、最近、驚くべき方法で解決されたのです。詳細は割愛しますが、それは、神様の働きを感じるものでした。また、そうすると他の問題に対する気持ちも、少し和らいでいきました。

"神は、あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、わたしたちも神からのいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます。"(第二コリント 1:4)

"だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々

新たにされていきます。わたしたちの一時の軽い艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。"(第二コリント 4:16-17)

短い人生経験と聖書の学びから個人的に思うのは、神様が栄光を現される前、必ず試練のときがあるということです。いま、コロナで世界中が苦しむ中、ワクチンの効果も見え始めています。祈りをもって、希望の日を迎えられたら、と思います。

ちなみに、キャンプの2泊目からは、近くのキャンプ場で毛布を借りることができ、快適に過ごせました。恵みに気づくことも大切ですね。

【おしらせ】



- ルーテル教会の「歌う礼拝」(J・S バッハも生み出した) を体験してみませんか
※ 「ルーテル」は宗教改革者マルティン・ルターのドイツ語読み
- 礼拝は、いつでも(一度だけでも)、どなたでも(信徒でなくとも)自由にご参加できます ※夏休みもつづけます
- 子どもたちには、教会学校のように「こどもへのおはなし」があり、「祝福」をいたします
- 礼拝の見える隣の部屋を安心してご使用できます【エアコン・音響完備】

ご不明な点は、
気軽に牧師までおたずねください